

# 長く暑い夏

横浜市グループホーム連絡会  
会長 室津 滋樹

暑い、長い夏が、やっと終わりました。今年の夏は、雨も降らず、例年よりずっと暑く感じました。

私が働いているふれあい生活の家と本牧生活の家は皆からだに重い障害をもっています。(あわせて知的な障害や精神障害をもった人たちもいます)ですから、入浴に介助が必要な人たちがほとんどです。

特に脳性マヒという障害は、じっとしていようとすることも手や足が動いてしまったり、力を抜きたくても力がいってしまいう障害ですので、夏になると汗でぐっしょりになってしまいます。汗でぐっしょりになったシャツを着替えようとすると、服を着替えるために、手を動かしたり、からだを動かしたりで、また汗だくになってしまいうくらい汗をかきます。その上、一日中車イスに座っているの背中やお尻の下は、びしょびしょです。

生活の家では、毎日はいりたいたいという人は、冬でも毎日入浴しているのですが、ほとんどの人は普段は一日おきに入浴しています。でも、夏の暑い時期は、皆毎日はいりたいたいと思います。当たり前のことだと思えます。

ところが、介助が必要な人が毎日お風呂にはいるとなると、大変なのです。職員が毎日入浴介助をしても、全

員はとても入浴できません。それに、毎日入浴介助をしていたら、職員がからだをこわしてしまいます。

それに、入浴介助だけでなく、食事を食べたり、トイレ、着替え、歯磨きや就寝の介助も必要ですから、普段でも職員以外にアルバイトやボランティアの人たちが一つのグループホームに二名ずつ毎日手伝いに来ます。その上、夏になるとお風呂の介助の回数が増えるのですから、もっと人手が必要になります。ところが夏になると、ボランティアの人たちは帰省していたり、旅行に出かけたり、生活の家に来られる人はいつもより少なくなってしまうのです。ですから、毎日毎日てんてこまいです。

そんなわけで、夜になると職員も入居者もボランティアアさがして電話をかけまわります。ボランティアの人たちで夕方からずっと家にいるなんて人はそうはいませんから、十時過ぎから勝負です。十時を過ぎた頃から職員も入居者も来られる人を毎晩さがし続けます。

ようやく涼しくなって、そろそろお風呂を一日おきにもどそうかという話がでた時、ボランティアアさがしを担当している入居者たちは、ほっとした表情で「そうしよう」といいました。そのほっとした表情が私には忘れられないのです。障害をもたない人たちにとってごく当たり前のことも、重い障害を持った人たちがしようとする、大変な努力をしなければならぬのが現実です。

夏の盛り、毎日お風呂にはいるのはそんなにせいたくなことなのでしょうが。

# 職員二人体制の確立を！

今年も連絡会が市に要望書を提出！

ノーマライゼーションは障害の軽い人だけのもの？

どんなに障害があっても普通の暮らしを（ノーマライゼーション）

という流れがだんだん大きなものとなり、在宅福祉、地域サービスの充実が叫ばれるようになりまして。でも普通の暮らしがどのような障害をもった人にも選べるようになっていっているでしょうか？

地域の中で普通の暮らしを表現するために職員の援助を必要としている人たちの家、グループホームの実態からこの問題について考えてみたいと思います。……

家賃は上がっているのに援助費は上がらない……

グループホーム試行制度が始まった八十五年と九十二年を比べると、世の中の家賃は大幅に上昇しました。

生活保護費で拠出される家賃額

も四万二千円から五万四千六百円になり、その上昇率は三十%になります。

グループホームの家賃も上昇する中で家賃補助は横ばいの状態が続いています。

障害者の所得が保障されていない現在、すべてを入居者の負担にすることは難しく、大変苦しい運営が続いています。

職員数はどうなっている？

グループホーム職員の仕事は入居者の生活を支えることです。この夏の統計では、八グループホームの労働時間平均は一日あたりおおよそ二〇時間。常勤職員の一員の平均労働時間はおおむね十時間のこり五〇%を非常勤職員やアルバイト、ボランティアでうめているという結果が出ています。

現在のグループホームは、入居者の安定した暮らしを維持すると

いう基礎的な部分で、ボランティアやアルバイトの力に依存しなければ成り立たない状況なのです。

グループホームの仕事は少なくとも職員二名の体制が必要で、そして、さらに介助を多く必要とする入居者がいるところでは介助者を増やすための加算が必要で、

人件費は？

表のように生活保護の他人介護料、ホームヘルパーの時給はこの

	1985年	1991年	上昇率
運営基本費※①	58,000円	70,000円	20%
他人介護料※②	36,500円	63,000円	73%
ホームヘルプ料	610円/時間	870円/時間※③ (1,300円)	43% (113%)
大卒初任給(全国男)	141,550円	180,550円	28%

※①グループホームに対して市から出される運営費の補助(入居者1人に対する月額)  
 ※②生活保護を受けている人で他人の介助を必要とする人に与えられる月額  
 ※③( )内は介護手当を加えた額とその場合の上昇率

七年間にずいぶん上昇しました。ところが同じ内容の仕事でありながら、グループホームの職員の給与となる運営基本費は毎年二千万程度で定期昇給があるのみで格差は広がる一方です。

大阪でも横浜市に習ってグループホーム制度がスタートしましたが、補助額ですでに横浜を追い越しました。

施設待機者をたくさん抱えているという大都市よこはま。施設の中にも、施設待機者の中にも、グループホーム制度が整備されれば地域で暮らしていただける人はたくさんいるはず。私たちはグループホームが障害が重い人でも生活できる場所となることを願って、横浜市に要望しています。

- ①どのグループホームにも職員が二人雇える制度に。
- ②介助をたくさん必要とする入居者についてはさらに介助加算をつける。

# よくいん 職員の日

グループホーム友の家  
の例で...

さらに、介助を必要とする  
入居者がいる場合...

5:30 ↓ おべんとうつくり

あさごはんづくり

6:30 ↓ てかける人のチェック

服装 ひげそり もちもの

8:20 ↓ あいだで自宅にもどり、わが子の朝食、学校への送り出し

家事

10:30 ↓

- ★ 買い物、★ 会社とのコンタクト
- ★ メンバーケア (病院・預金・買いものつきなど)
- ★ メンバー在宅時の対応、★ 家屋の管理
- ★ ケア会議、★ 事務局会議
- ★ 友の家ニュース発行 ★ グループホーム連絡会
- ★ 運営委員会、などなど...

16:00 ↓

メンバー帰宅

夕食の用意

19:00 ↓

配せん 夕食 あとがけ

いただきます

20:30 ↓

給料・づかい管理の援助

各種記録

21:00 ↓

22:00 ↓

最善策

メンバーとの対話・助言など

薬の管理、健康チェック

家庭とのけんやく e.etc...

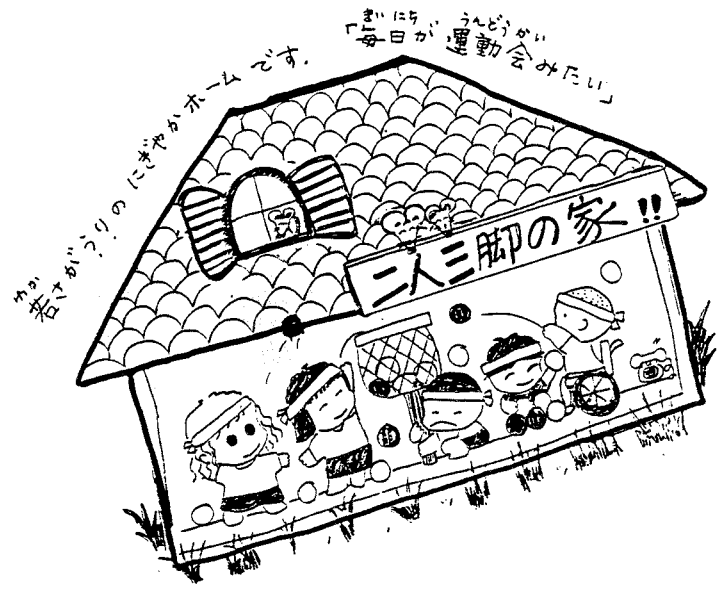
体そうクラブ(毎週1回)  
ミーティング(毎週1回)



!! その他!!

体験入居・バザー・宿泊旅行

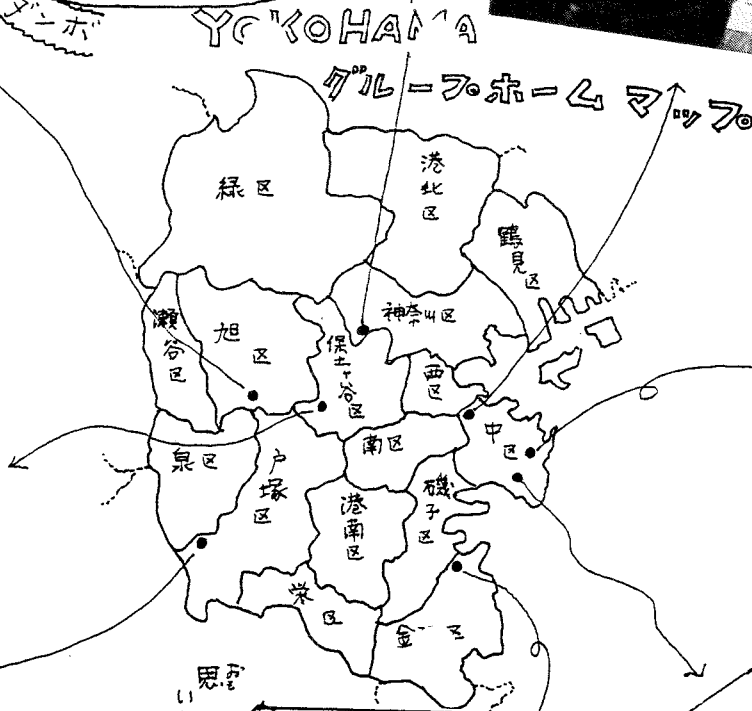
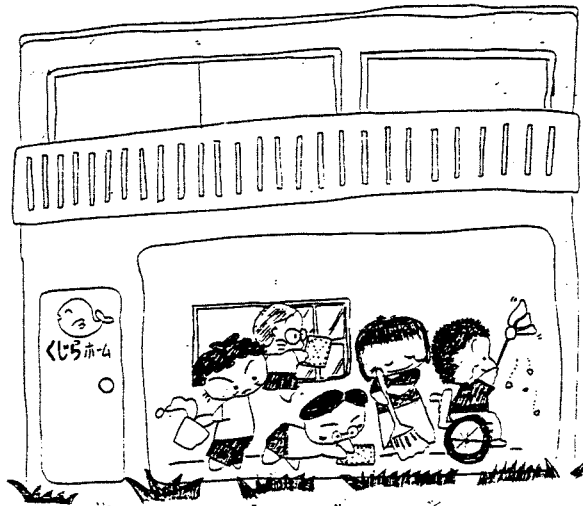
地域の行事参加・見学者、来客の対応...



グループホーム「やまゆり」  
お客さま大好き!  
カラオケ大好き!!

グループホーム くじら

マイペース  
マイペースが  
あいことばの  
さわやかホーム。  
平均年齢は  
ちよつと高いけど  
はやく元気な  
くらしています。



地域の中で根づいている  
グループホーム「カンガルーの家」



とめくねるな おつひん  
自立の安の うすくの  
そばとわね 2 その気になつて  
親むとほね 2 はや8年  
わたる世間ば 鬼ばかり  
花も氣も 3みこえ  
あ、生活の家 どんと行く

ふれあい生活の家  
(男1人、女3人)

# 報告

## 入居者部会誕生!!

### グループホーム連絡会

#### 第一回総会開かれるー

去る七月十一日、桜木町にある健康福祉センターで「グループホーム連絡会」の第一回総会が開かれました。私たちの願いから七年前にスタートしたグループホーム。そして、一九八七年、ダンボ・ふれあい生活の家・友の家の三つのグループホームで始まった連絡会も今では八ヶ所という大きな団体となりました。

当日は欠席する人もなく、各グループホームの入居者・職員・運



営者ともに元氣ハツラツとした顔がせいぞろい。メンバーの中には総会をはじめての人もいて「『総会』ってなあに?」という場面もありました。

総会では、連絡会会長を始め来賓の方、民生局より清水さん。在援協の酒井さん・作業所連絡会の新井さんからの力強いあいさつ。つづいて「グループホームはそこに入居する人の家」で「グループホームは生活訓練・しつけの場所ではない」こと、「グループホームの生活は、入居者の意思に基づいて決められる」こと等、グループホームの基本的な考え方(次ページ参照)を決めました。そして、入居者と職員の間がよりいっそうなんでも話し合えるように、入居者部会・職員部会が誕生しました。

総会の後、連絡会では今年度の活動方針にもとづいて「障害の重い人も生活できるグループホーム制度の充実を」と「市」に訴え

## インタビュー



新しく誕生した入居者部会々長・米田まり子さんにきく



記者・入居者部会々長にえらばれておめでとうございます。  
米田・どうも…  
記者・どうやって、えらばれたのですか。

米田・自分でやりたいといいました。やってみたいとおもったから…エエッと、ほかのグループホームにはやる人がいないと思ったから。

記者・入居者部会では、どんなことをやりたいのですか。

米田・そうですネェ、まず、会議をもつことです。

記者・そこでは?

米田・そこでは、みんなで仕事のことを話しあったり、レクリエーションについて話しあったりします。

記者・総会についての感想は?

米田・会長になってうれしかったです。みんなからはげましをうけて…

がんばります!

続けています。また、入居者部会では「入居者同士の交流を」と皆でできるレクリエーション等を計画したり、職員部会と一緒に、「グループホーム職員ハンドブック」の作成にとりかかっています。

今まで以上にグループホームは、入居者を中心として職員とともに明日にむかって歩いていってほしいとおもいます。

(本牧生活の家人居者 西岡直子)

# れんらく会の基本的な考え方

グループホームはそこに入居する人の家です。

グループホームの運営は入居者を中心として行なわれます。

家の機能とは、まずくつろぎの場であるということです。

外でどんないやなことがあっても、家に帰れば、受け入れてくれる人が待っている。グループホームはそんなところでありたいと考えます。

グループホームは生活訓練の場所や、しつけの場所ではありません。

生活力の向上や、社会性というのは、いろいろな経験の積み重ねの結果として身につくものです。いろいろな経験をする機会を大切にしたいと考えています。

グループホームの生活は、入居者の意思に基づいてできあがるものと考えます。

グループホームはすべての入居者が、自分の意思を表現できる場所でありたいと考えます。

しかし、入居者の多くは自分の意思をうまく表現することが、とても苦手です。

この現実を乗り越えるために、二つの努力が必要です。

一つは、運営にあたるものや、職員が、入居者のきもちを正しく理解しようとする努力です。

もう一つは、入居者自身が意思を表現する力を育てていくことです。

このことは、どちらも歴史の浅い私たちにとってはこれからの課題です。

グループホームれんらく会はこの課題に積極的に取り組むために、入居者の要求や生活を中心にすえ、入居者が話しあいや決定に加わった活動をすすめていきたいとおもいます。

横浜市グループホームれんらく会

去る七月に、横浜市グループ

ホーム連絡会のみなさまには、

入居者部会、職員部会、運営者

部会などの組織を充実して、大

成功のうちに総会を開催された

と聞きました。誠に

おめでとうございま

## 総会によせて

ところで、横浜市は道路や上下水道、バス、地下鉄、福祉・医療、教育、ごみ処理など三百二十万市民が、安心して快適に暮らしているような色々な仕事を

そこで、横浜市会ではこのような仕事、市民生活をより一層豊かで潤いあるものにするよう、審議(予算審議など)をしたり、監

環境保全局を担当しています。福祉に關係する陳情が出されま

す。私たちの委員会で審査されることになるのです。

ともあれ、グループホームについて、八年前から横浜市は全国に先駆けて実施してき

ました。この実績の上に、さらに質向上に、さらに質向上に

視(決算審議など)をしています。私(決)算審議など)をしてい

私(決)算審議など)をしてい

私(決)算審議など)をしてい

私(決)算審議など)をしてい

私(決)算審議など)をしてい

私(決)算審議など)をしてい

私(決)算審議など)をしてい

私(決)算審議など)をしてい

私(決)算審議など)をしてい

私(決)算審議など)をしてい

私(決)算審議など)をしてい

アメリカンパトロール



M FUJIO (グループホーム友の家) 藤尾正栄画

お・ね・が・い  
 基金づくりにご協力を!  
 グループホーム 運営支援基金のために  
 みなさんのお手元でねまわっている未使用の  
テレホンカードをご寄付下さい。  
 送り先 ■ 横浜市グループホーム連絡会事務局  
 〒231 横浜市中区本牧満坂10  
 本牧生活の家内  
 TEL. 045-623-5318  
 FAX 045-623-5319

お・し・ら・せ  
 ☆グループホームの紹介ビデオ  
私たちまちの中で生きたい  
—グループホームのくらし—  
 を貸し出しますのご利用下さい。  
 お問い合わせ・045-471-0556  
 (在援協)

ほ・し・ゆ・う  
 ☆ 男女職員…グループホーム ダンボ  
 お問い合わせ・045-333-5990  
 (地域作業所ダンボ)  
 ☆ 男女ボランティア…グループホーム くじら  
 男女職員 グループホーム =人三脚の家  
 お問い合わせ・045-382-1002 (くじら社)  
 ☆ 男女ボランティア…生活の家  
 入浴・食事などの介助  
 お問い合わせ・045-623-5318 (本牧生活の家)

☆ バザー ふたつ  
グループホーム 友の家 バザー  
 とき ■ 11月15日(日)  
 10.00-14.00  
 ところ ■ 友の家…入居者との交流の場  
 ■ 連合町内会館…バザー  
 お問い合わせ 045-774-9242 友の家  
地域作業所ダンボ バザー  
 とき ■ 11月23日(月)  
 10.00-14.00  
 ところ ■ 地域作業所ダンボ  
 お問い合わせ 045-333-5990

ありがとうございました。[寄付金] 辻田平七、森和雄、山口百合子、水越玲子  
 [テレホンカード] 斎藤洋子、柴田昌一、佐野英治、岩屋文夫、工藤恵美子、  
 大木啓子、大友絢子、安藤郁子、王丸八千代、小林光枝、桑原玲子、竹中佳代子、  
 横浜国立大学工学部建設学科都市計画研究室、辻田平七、水越玲子(敬称略)

**編集後記**

▼創刊号の反響がおおきいのおどろいています。NHKでは本牧生活の家を中  
 心にレポートを放映、読売新聞では機関紙創刊が記事になり、朝日新聞ではグルー  
 プホームについて大きく連載されました。  
 ▼さらに、10月11日に行ったシンポジウム「私たちもまちの中で生きたい」も満  
 席の熱気にみちた会になりました。グループホームへの関心の高さに身がひきし  
 まる思いです。  
 ▼というわけで、入居者をはじめみなさんの思いをひしひしと感じながら、今号  
 に取り組んだ次第です。

発行人 神奈川県身体障害者福祉定期刊行物協会  
 横浜青葉区島1町1752  
 横浜ラポール3F  
 編集人 横浜市グループホーム連絡会  
 横浜市中区本牧満坂10本牧生活の家内  
 TEL 045(623)5318  
 FAX 045(623)5319  
 編集責任者 室津 滋樹  
 定 価 100円

◎この機関誌は神奈川新聞厚生文化事業団の補助金によって発行されました。